

T O B A
鳥羽少年探偵団

きょうみ しんしん とば いろ
興味津々鳥羽の色。

第 2 期鳥羽少年探偵団報告書



平成 1 4 年度

指令 九鬼水軍の謎を解く



はじめに

地球塾の特別講座として、鳥羽市に関係があり、偉大な業績を残した人物について、調査や体験学習を通して、鳥羽の文化や歴史を学ぶため、市内6中学校10人の中学生による「第2期鳥羽少年探偵団」を平成14年7月6日に結成しました。第2期目

は、戦国時代に織田信長や豊臣秀吉に仕えた水軍の将・九鬼嘉隆をテーマに、市内に残る足跡を4回に渡って調査し、平成14年11月9日、10日には兵庫県三田市と大阪城を探索しました。三田市では市内にある九鬼家ゆかりの史跡が今も大切にされていることや、大阪城天守閣にある九鬼水軍に係る資料の多さに驚きました。

結団式

日時 平成14年7月6日(土)
場所 青峯山正福寺

近鉄松尾駅に集合した第2期鳥羽少年探偵団10名は、霧雨の中、その昔船乗りたちが通ったという青峯山参道4kmの山道を登りました。車道もあるが足で登ってこそありがたさも増すと、講師の野村さん。1丁ごとに立つ石柱(丁石)を数えながら、うばめ榎の巨木や、山伏たちが護摩を焚いたという旧跡などの説明を受けながら、1時間かけて正福寺に到着。4kmの登山を済ませた団員達の顔には不思議と満足感がありました。



立派な彫刻の山門や、境内に掲げられたおびただしい船絵馬や護摩札、そして大黒屋光

太夫も訪れた話など驚きや発見ばかり。境内を見学した後は地球塾塾長の井村鳥羽市長より任命書とバッジが渡され、全員で「九鬼水軍の謎を解くため頑張り抜くことを誓います」と宣誓。そして、結団式で探偵団員と共に注目を集めたのは、明智先生こと鏡浦中学校教諭の山下昌子先生、明るい女性の明智先生登壇に会場は和やかなムードでした。



〔境内には船絵馬・護摩札などが一杯〕

第1回学習会 九鬼嘉隆と日本丸

日時 平成14年7月6日(土)
場所 青峯山正福寺

市文化財調査委員の野村さんを講師に、九

鬼嘉隆と日本初の鉄で覆われた日本丸について学びました。特に九鬼水軍の歴史について詳しく説明していただきました。

学習会の後半には、野村さんの協力で大きな船絵馬作りに挑戦し、立派に出来上がった船絵馬を堀口住職に奉納しました。

初めて顔を合わす団員たちは、学習会の後半には緊張感も和らいだ様子でした。



〔船絵馬づくりを終えハイポーズ！〕

指令第1号

- ・ 8月4日安楽島漁港に集まれ
- ・ 九鬼嘉隆に関する本を読んでおけ

第2回学習会 体験乗船

日時 平成14年8月4日(日)

場所 安楽島漁港、加布良古岬

この日の最初の挑戦は、志摩地方沿岸部で一昔前まで活躍したサッパ船の体験乗船。櫓を漕ぐのがはじめての団員が多く、結構苦戦した表情でした。時間の関係で充分出来なかったのが残念でした。続いて九鬼水軍のライバル小早川水軍ゆかりの地である広島県東野町から海の博物館に収蔵された櫓伝馬船の体験乗船。この船は16人乗りのため10人の団員と、山下明智先生と一緒に漕ぐことが出来ました。最初は思うように櫓が合わなかったが、時間が経つに連れ櫓が揃うようになり、

気分良く船を進めることが出来ました。



〔櫓伝馬船の体験乗船〕

陸に上がり、郷土史研究家の小池龍作さんから九鬼嘉隆の家臣で安楽島左門ゆかりの薬師堂について説明を受けました。戦になると薬師堂の中にある厨子を背負って戦った話など、戦国時代の様子について聞くことができました。

その後、海から吹く真夏の風を受け、加布良古岬にある志摩国一の宮の伊射波神社を探索した団員達は日に焼けた様子でした。



〔厨子〕



〔加布良古岬の探索〕

指令第3号

- ・ 8月15日河内の火祭りを調査せよ
- ・ 九鬼水軍ゆかりの地を調査せよ

第3回学習会 河内の火祭り

日時 平成14年8月15日(木)16日(金)

場所 加茂地域

15日午後3時、加茂中学校に集合し説明を受けた後、早速九鬼岩倉神社に向かいました。第1回目と同じ講師の野村さんから、九鬼嘉隆が甥である澄隆を滅ぼした怖い話や、昔は岩倉神社近くまで船が来ていたことなど、地名との由来を教えてくださいました。

加茂中学校に戻り、夕食の支度を開始。今夜のメニューはカレーライス。地球塾推進委員会のメンバーや、探偵団員のお母さんに手伝っていただきました。

夕食の前には、今回の最大の調査である国の重要無形文化財に指定されている加茂五郷の火祭りについて、祭りの始まりの行事となる、火おこしの行事について、穂殿岡で見ることが出来ました。九鬼家の先祖の墓で行われる火おこしは、夕暮れの中怪しげな雰囲気でした。



〔九鬼家ご先祖の墓で火入れ式〕



〔河内火祭りのつぼき。大きい！〕

夕食を楽しく済ませ、火祭りについて野村さんから詳しく説明を聞きました。この祭りの始まりは、文禄の役の戦死者を弔ったことや甥の澄隆の供養から始まったなどの説があるという。また、去年の探偵団員達が活躍したビデオを見た団員達は、先輩の活躍の様子に、興味津々でした。

午後１１時、河内の火祭りの見学に出発。
夕方から聞こえ始めた鉦の音は、だんだんと
大きくなり、会場に到着すると、鉦や太鼓の
音と若い衆たちの声が入り交じり今まで見た
ことのない光景でした。



〔河内の若い衆。すごかった！〕

そして、驚いたことには墓の前に提灯をぶら
下げ、墓に向かい食事をしていることでした。
野村さんによると、これは先祖を迎え一緒に
食事をする風習でご先祖様を大切に、昔から
続いてきた行事。

いよいよ、つばきめがけて松明投げが始ま
りました。若い衆達は一生懸命放り投げるが、
なかなか火がつきません。やっとのことで火
がつくと、つばきに仕掛けてあったロケット
花火があちらこちらに飛び散り怖くなりました。
そして、つばきが真っ赤に燃え上がると、
若い衆の１人は、燃やしてはならないとされ
る３つの旗を必死で取り外し、今度は若い衆
全員で綱を引き柱を倒しました。この柱の倒
れる方向で吉凶を占うことから若い衆達は必
死になって取り組んでいました。

探偵団員達は、お盆の真夜中に行われる河
内の火祭りに感動した様子でした。



〔つばきが燃え上がる〕

１６日、朝食を済ませ丸山庫蔵寺へ。庫蔵
寺は九鬼嘉隆鳥羽城築城の際、地鎮祭並びに
祈願所としたお寺（本堂と鎮守堂は国重文）、
また、本堂周辺にはコツブガヤの木（国重文）
や、イスノキ（県文化財）など志摩半島の古
代の自然環境を今に示すものとして、学術的
に価値の高いものがたくさんあり、住職さん
から詳しく説明を受けました。中でも、本堂
の天井は、唐様式で壮麗優雅で室町時代の特
色をよく表していることから、天井を見上げ
た団員達は鳥羽にこんな場所があることに驚
いていました。



〔本堂の天井・素晴らしい！〕

第4回学習会 鳥羽城の伝説

日時 平成 14 年 10 月 13 日（日）

場所 答志島、鳥羽城周辺

初めて島を訪れる者が多い探偵団員達は、答志島和具棧橋に集合し、明智先生から本日の指令「3つのグループに分かれ、首塚、胴塚、血洗の池について、スケッチ調査と住民聴き取り調査を実施せよ」を受け、早速スケッチ調査を開始。血洗の池グループリーダー加茂中学校の中村団員は、苦戦しながらも何とか書き終えました。また、胴塚グループリーダーの鳥羽東中学校植村団員は、胴塚の裏側から書きました。スケッチ調査の後は住民聴き取り調査。網仕事をしている人に尋ねると、歴史に詳しい人を紹介すると、元漁協組合長の山本さんと呼んでられました。山本さんからは九鬼嘉隆に関係することについて詳しく説明していただき、特に血洗の池まで昔は船が入ってきた話などに驚きました。



〔胴塚のスケッチ〕



〔島民聴き取り調査〕

鳥羽に帰り、市民文化会館で報告会を行いました。報告会の前には地球塾推進委員会の協力で報告の仕方など教えていただきました。

報告会に続き、郷土史研究家の村山眸さんから鳥羽城の歴史について会場に持ち込まれた図面を元に、城周辺部の移り変わりや、築城にまつわる伝説の紹介など楽しく学びました。その後、実際に城跡を探索し、井戸があった場所や、抜け穴跡などについて説明を受けました。



〔鳥羽城の絵図について
村山先生から説明を受ける〕



〔鳥羽城跡を探索〕

指令第7号

鳥羽市内の調査は無事終了した
九鬼水軍のことが少し分かってきた
ようだね
さて、次は九鬼の殿様がなぜこの鳥羽
を追われたのかを考えるのだ
その手がかりを探したまえ
そのカギは兵庫県三田市にある
本日の指令
11月9日兵庫県三田市に向かう
午前7時50分に近鉄鳥羽駅前に
集まれ

兵庫県三田市、大阪城探索

日時 平成14年11月9日(土)10日(日)
場所 兵庫県三田市及び大阪市大阪城

出発の朝はこの秋一番の冷え込みとなり、
目的地三田市北部も初冠雪となりました。

三田市役所に着き、三田市教育委員会の山
崎さんの案内で旧九鬼家住宅資料館に向か
いました。旧九鬼家住宅資料館では、三田市の
杉尾教育長より「三田で楽しく過ごしてくだ
さい」と歓迎のご挨拶をいただき、鳥羽市側
は山下明智先生が「これを機会に両市の絆が
深まることを祈念します」と鳥羽市長のメッ
セージを読みました。



〔メッセージを読む明智先生〕



〔杉尾教育長から歓迎のあいさつ〕

三田市内の探索は、第4回学習会と同じく
3つのグループでの調査となりました。

正覚寺 武家屋敷跡 御下屋敷跡

正覚寺

鳥羽東中鈴木、答志中鈴木、鏡浦中城山建、
長岡中亀川

鳥羽から三田へ国替えとなり、九鬼藩祖久
隆の母御前の墓石を積んだ牛車が迷い込んで
しまい結局このお寺に墓石を置くことになり
ました。この話は、三田の民話で紹介されて
います。



〔迷子になった墓石をスケッチ〕

武家屋敷跡

加茂中中村、鏡浦中城山和、長岡中田畑鳥羽より国替えになった九鬼氏に従い、また新規に召し抱えられた藩士たちが住んだ屋敷町。



〔武家屋敷跡を調査〕

御下屋敷

鳥羽東中植村、答志中浜口、神島中小久保九鬼藩主の御下屋敷跡のあったところ。地続きの川べりに川遊びの御船小屋がありました。



〔御下屋敷跡をスケッチ〕

○スケッチ調査の次は住民聴き取り調査



酒屋さんから親切に教えていただいたグループや、主人が留守のため、奥さんがわざわざ出張先に電話をかけていただき九鬼家に関する貴重な資料をいただいたグループなど三田市の皆さんに親切にさせていただきました。

聴き取り調査を終えた団員達は再び旧九鬼家住宅資料館へ集合。寒い中薄着で調査した女性団員達は、玄関のストーブからしばらく離れられませんでした。

今度は全員で探索開始。初めに県立有馬高校（お城跡）の校庭にある井戸を見学。その後、三田市立三田小学校にある三田城跡の記念碑と三田御池について山崎さんより説明を受けました。



三田市内探索の最後は心月院。寛永10年（1633）鳥羽よりお国替えとなった藩主九鬼氏は以前からここにあった梅林寺を増改築、寺号を改め天翁山心月院とし鳥羽の菩提寺常安寺の覚雄是的和尚を開基、九鬼家代々の宗廟とした。



〔心月院の入り口付近〕



〔九鬼家代々の墓〕

心月院をあとに、バスに乗り込んだ団員達は、バスの中の暖かさと、無事1日目の探索を終えホッとした様子で車内は和やかなムードで宿泊施設へ向かいました。

二日目は、天気も回復し絶好のコンディション。

三田市立有馬富士自然学習センターでは、この地域の昆虫や生物について、楽しく展示されているのを見学しました。



〔有馬富士〕

そして、大阪城へ。大阪城では石山本願寺の時代、大阪湾をめぐって二度戦った九鬼水軍太鼓と村上水軍太鼓が約420年ぶりに三度目の激突を果たすイベントが開催されていました。



〔九鬼水軍太鼓のみなさんと〕



〔六文銭の武田隊とも交流〕



〔大阪城天守閣で豊臣秀吉の兜を付けた
植村団員〕

大阪城天守閣には、九鬼水軍に関する資料が沢山展示してあったのには驚きました。特に目を引いたのが九鬼大隅守船柵之図や九鬼嘉隆が戦陣で着用したと伝えられている三巴紋の陣羽織です。また、朝鮮半島の出陣命令となった豊臣秀吉朱印状なども展示されていました。



〔九鬼大隅守船柵之図・大阪城天守閣蔵〕

大阪城を後にした鳥羽少年探偵団一行。
帰りのバスの中で、三田のグループ活動報告と7月からの学習会と三田、大阪城の探索についての感想を報告しました。

全活動が無事終えホッとした気持ちと、今日が最後となった寂しさと複雑な心境の鳥羽少年探偵団であった。



〔バスの中でグループ活動報告をする
鈴木団員〕

おわりに

「九鬼水軍の謎を解く」という任務に就き、今まで訪れたことのない場所を自分の足で歩き、いろいろな人と出会い、見たり聞いたりして調べた彼らは、九鬼水軍の足跡は鳥羽市内だけではなく、三田市や大阪城にも広がりがあることを知りました。このことから、九鬼嘉隆が戦国時代に全国に名を馳せた水軍の将であったことを理解してくれたと思います。「九鬼水軍」という素材を通して、「調べること・知ろうとすること」の大切さを学ぶことができたのではないのでしょうか。そして、この活動をきっかけに、いろんなことを自分で調べてみようという意欲につながることを期待します。



「生きる」から「活きる」へ。